

西宮版総合戦略の取組み状況（平成 30 年度）

令和 2 年 3 月

西宮市 政策局

目 次

1. 西宮版人口ビジョン・総合戦略【概要】	1
2. 人口の状況.....	3
(1) 総人口の推移	3
(2) 人口動態の状況	4
3. 西宮版総合戦略 平成 30 年度進捗状況.....	5
(1) 平成 30 年度の状況について	5
基本目標(1) 稼ぐ力を引き出し市民の暮らしを支える産業支援	5
基本目標(2) 大学との連携強化	8
基本目標(3) 都市ブランドの発信強化.....	11
基本目標(4) 芸術文化・スポーツに触れる機会の促進.....	13
基本目標(5) 結婚・出産・子育て・子供の育ちへの支援.....	15
基本目標(6) 高齢者・障害のある人の暮らしへの支援.....	20
基本目標(7) 地域特性を踏まえた取組み.....	23

1. 西宮版人口ビジョン・総合戦略【概要】

【策定趣旨】

- ・急速に進展する少子高齢化への対応や人口の東京一極集中の是正等のため、各自治体で人口減少克服・地域創生のために地方版総合戦略の策定が行われています。
- ・西宮市でも、人口の現状を把握・分析するとともに、文教住宅都市としての魅力を生かし、「西宮らしい暮らし」を楽しむまちを基本コンセプトとした「西宮版人口ビジョン・総合戦略」を策定しました。

【人口の将来展望】

- ・西宮版人口ビジョンにおいて、社会動態、自然動態からいくつかのパターンを推計し、本市としてはパターン4を目指すこととした。

(パターン1) 国立社会保障・人口問題研究所の標準的な推計手法で、全国的に人口が減少するため人の移動が半減すると仮定したもの

(パターン4) 合計特殊出生率を1.6と仮定し、若い世代25～34歳の夫婦のみ世帯が200人/年(100世帯/年)転入すると仮定した場合

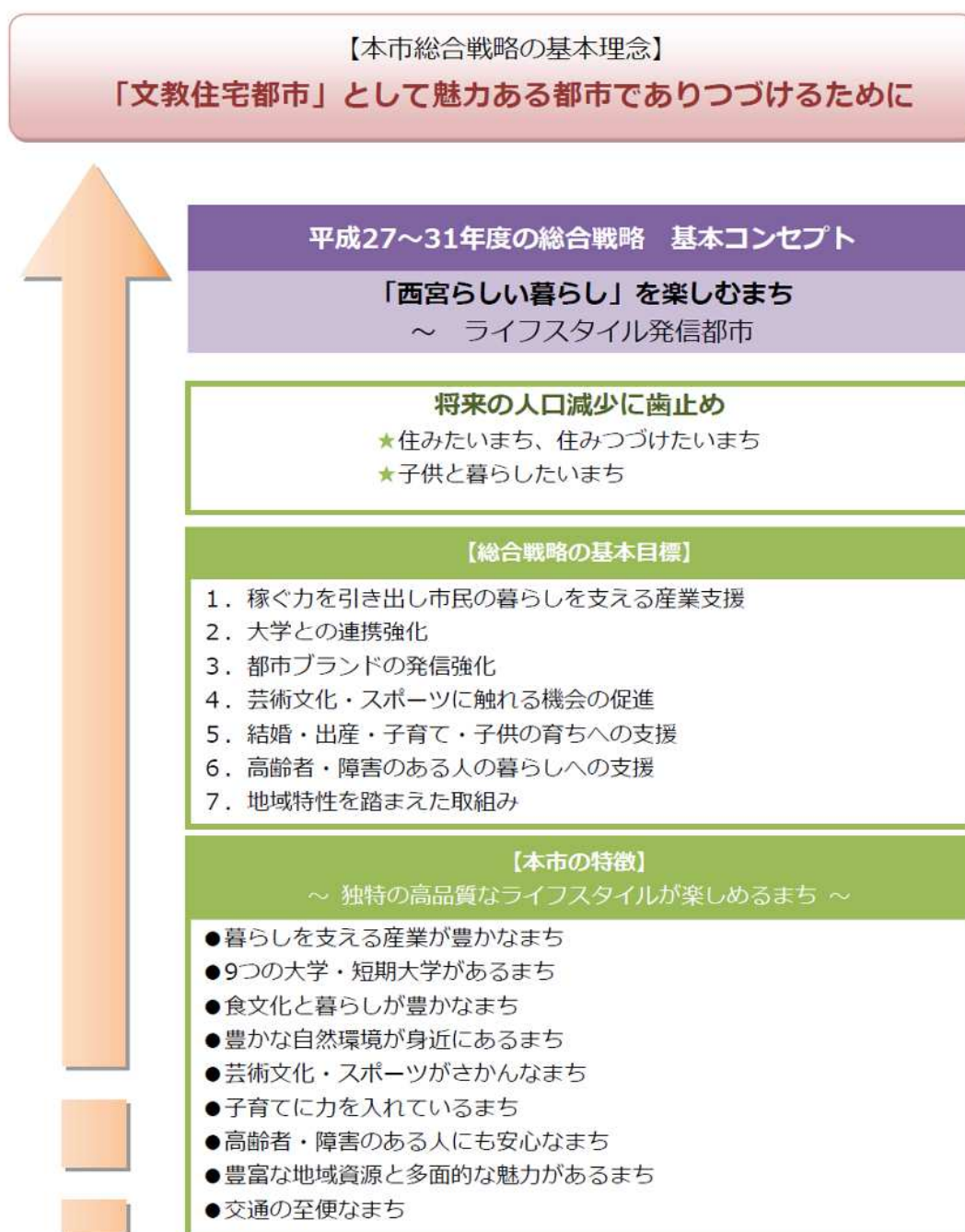
図-1 将来人口展望



【本市の政策目標】

・“「文教住宅都市」として魅力ある都市でありつづけるために”を本市の総合戦略の基本理念として必要な対策を講じていくこととします。

・地域創生の取組みにあたっては、「独特の高品質なライフスタイルが楽しめるまち」という本市の特徴を活かし、“「西宮らしい暮らし」を楽しむまち～ライフスタイル発信都市”を、平成 27～31 年度の総合戦略の基本コンセプトとして取組みを展開します。



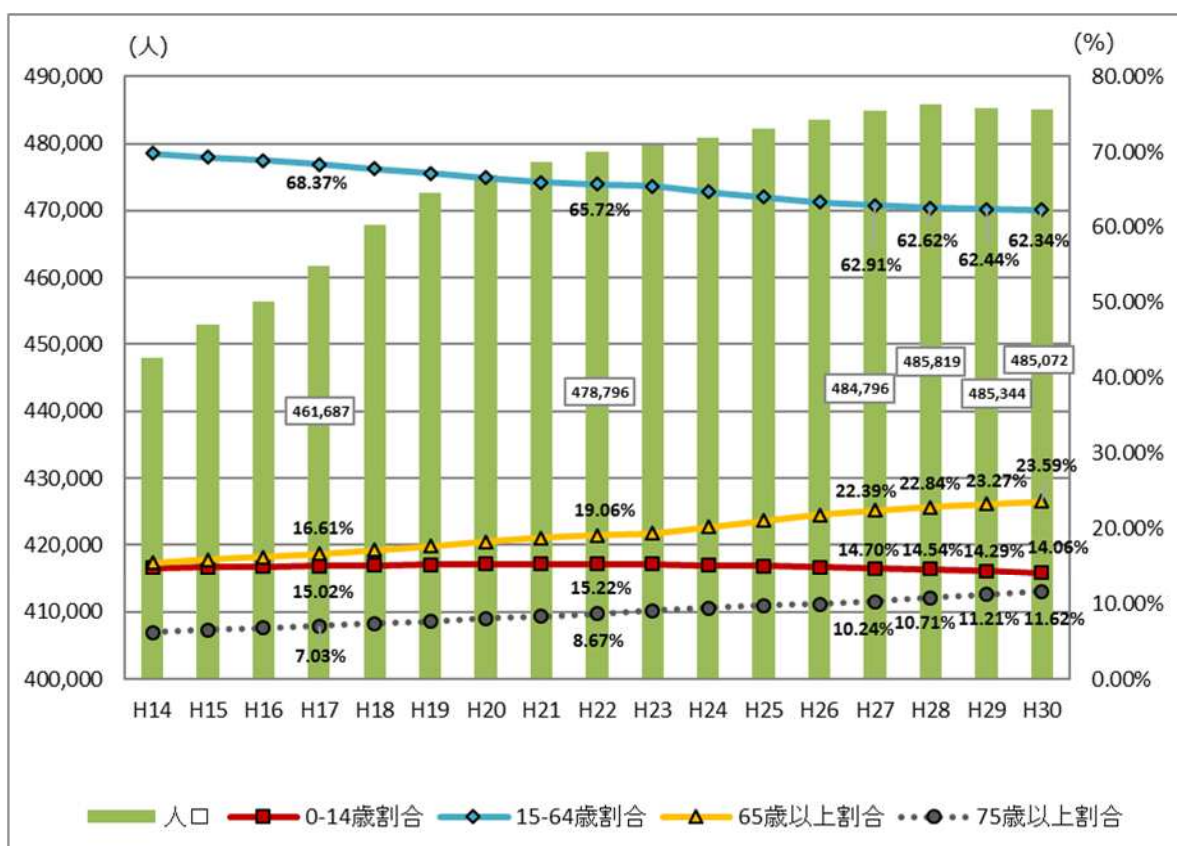
2. 人口の状況

(1) 総人口の推移

・平成 30 年度 9 月末現在の人口は 485,072 人

- ・15－64 歳割合は 62.34%、平成 29 年度から 0.1 ポイント減少
- ・65 歳以上割合は 23.59%、平成 29 年度から 0.32 ポイント増加
- ・0－14 歳割合は 14.06%、平成 29 年度から 0.23 ポイント減少
- ・75 歳以上割合は 11.62%、平成 29 年度から 0.41 ポイント増加

図－2 総人口の推移



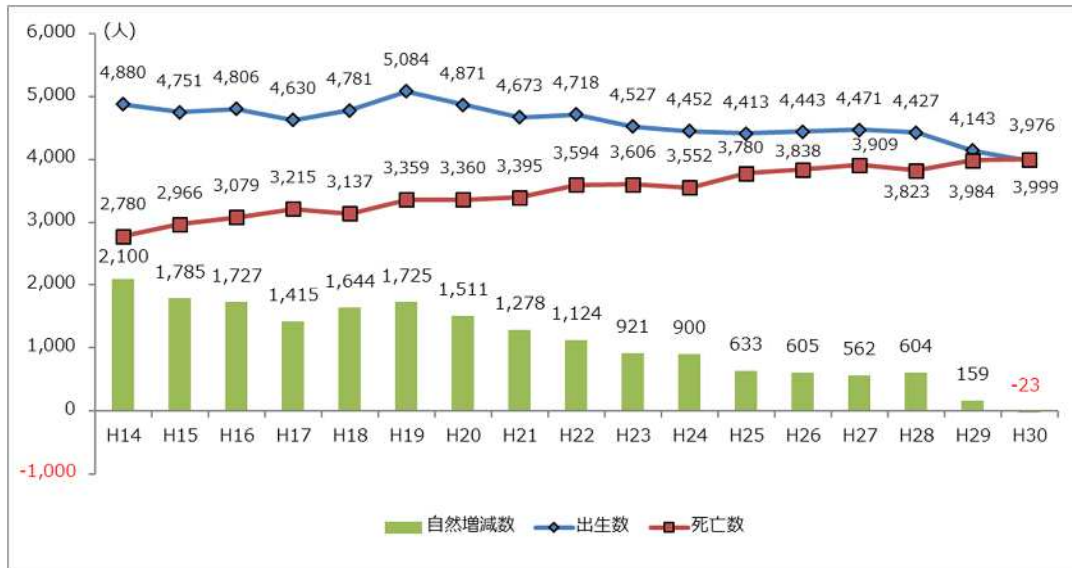
データ：平成 14 年～30 年_9 月末時点_西宮市住民基本台帳人口

(2) 人口動態の状況

① 自然動態

- ・平成 30 年の出生数は 3,976 人で、平成 29 年に比べて 167 人減少した。
- ・一方で死亡数は増加し、自然増減数はマイナス 23 人となった。震災以降では初めて死亡数が出生数を上回った。

図－3 西宮市における出生・死亡数の推移

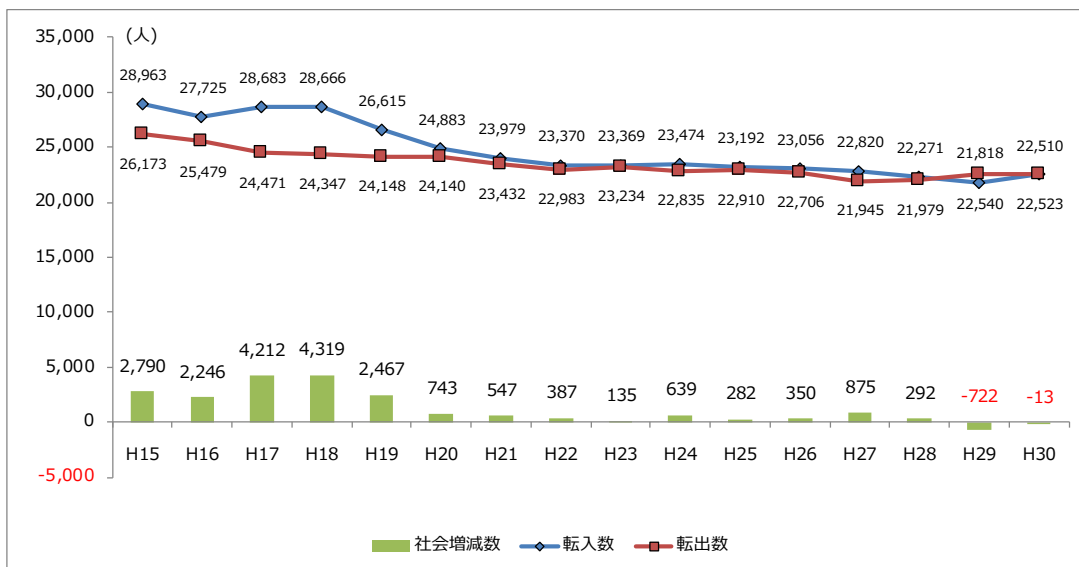


データ：平成 14 年～30 年_西宮市住民基本台帳人口

② 社会動態

- ・平成 30 年の転入数は、22,510 人となっており、平成 29 年より 692 人増加した。
- ・転出数は昨年に比べ減少したものの、平成 30 年の社会増減数はマイナス 13 人となった。

図－4 西宮市の転出・転入数の推移（市内間転出入を除く）



データ：平成 14 年～30 年_西宮市住民基本台帳人口

3. 西宮版総合戦略 平成 30 年度進捗状況

(1) 平成 30 年度の状況について

基本目標(1) 稼ぐ力を引き出し市民の暮らしを支える産業支援

【施策内容の概要】

- ・地域経済の活性化と雇用確保の観点から、競争優位性の高い飲食料品関連産業を中心とする分野における本市産業の競争力強化に取り組みます。
- ・市内で生産された商品やサービスが、消費意識の高い市民等により一層、購買・消費されることで、さらに質の高い商品やサービスの創出、市民のライフスタイルの質の向上につながる、正の経済循環（サイクル）が形成されることを目指します。
- ・企業の社会貢献活動を通じて、本市の地域課題や政策課題に共に取り組む「企業市民」を増やし、持続可能なまちづくりに繋げていきます。

【数値目標】

- ・目標達成については今後の動向を見守る必要がある。（経済状況により影響を受ける場合があるため）

指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
1 市内総生産（GDP）	1兆2,379億円 (H25)	1兆3,489億円 (H29)	1兆2,969億円 (R1)
2 市内1事業所当たり製造品 出荷額等	1,545百万円 (H25)	1,692百万円 (H30)	2,000百万円 (R1)
3 市内従業者数	147,324人 (H24)	152,049人 (H28)	160,000人 (R1)

「1」：県の試算値が変更されたため、基準値と目標値を再設定した。

「2」：県による速報値

【目標達成に向けた取組み内容（平成 30 年度の状況）】

①魅力ある企業へのワンストップ相談の充実	<p>■ 稼ぐ力が高い企業、魅力ある企業リストの作成</p> <p>⇒企業訪問で得た情報を基に、既存施策から支援方法を検討した。また、必要に応じて産業支援機関の支援情報の提供に努めた。</p>
	<p>■ 事業所訪問によるワンストップ相談</p> <p>⇒企業立地サポート事業において市内企業の訪問を行い、ニーズ把握に努め、必要に応じて支援制度や支援機関等の紹介を行った。</p>
②企業立地・定着の促進	<p>■ 市外からの工場移転の新規立地、及び市内企業の市内での移転や増築時の優遇制度の提供</p> <p>⇒企業訪問により、企業の意向を把握し、ニーズに応えるとともに、企業立地奨励</p>

	<p>金制度の周知・活用の推進を図った。</p> <p>■市外企業の本社機能を市内に移転する場合の優遇制度の創設 ⇒企業立地サポート事業において制度周知を行った。</p>
③産学官連携の推進	<p>■産学連携による製品開発やテストマーケティング(新製品の試験販売)、販路拡大の支援 ⇒「産学官連携による西宮ブランド産品創造事業」で2件を採択し、各事業者が大学と連携し、試作品開発を行った。また、平成29年度より別途コーディネーターに委託し、商品開発のサポートを実施した。</p>
④起業・創業支援による すそ野拡大	<p>■西宮商工会議所による重点的な経営指導 ⇒創業支援等事業計画に基づき、窓口指導や巡回指導、過去のスクール参加者へのフォロー等が実施された。</p>
	<p>■セミナー・スクール等による起業者の育成 ⇒創業支援等事業計画に基づくセミナーやスクールを実施した。</p>
⑤西宮ブランド（産品）の 構築	<p>■西宮ブランド（産品）の選定及び育成(日本酒、パン、ファッション、伝統工芸品、農産物等) ⇒ふるさと納税の返礼品選定や、西宮の和菓子ブランドをPRする「とおかし」プロジェクトを実施したほか、西宮の日本酒をPRする「宮子さんプロジェクト」を展開した。</p>
⑥市内産品の販路拡大	<p>■大型量販店と連携した西宮産品の常設販売やイベントの開催(日本酒、スイーツ、農産物等) ⇒日本酒など市内産品の販路拡大に向けて、流通事業者等との連携支援事業を実施した。</p>
	<p>■卸売業者と連携した販路拡大 ⇒市内卸売事業者と市内大型商業施設による市内産品の販促イベントの開催について協力した。</p>
⑦市内事業者の受注機 会の確保	<p>■事業内容に応じた市内事業者の受注機会の確保 ⇒市内の事業者の受注機会を拡大し、市内経済の活性化を図るため、「西宮市小規模修繕契約希望者登録制度」を設けており、庁内にその制度の周知を行い活用を促した。</p>
⑧商店街・商業団体活動 の活性化	<p>■商業団体による事業の企画・実施の支援 ⇒広報に関する側面的支援を行うとともに、補助事業に対して補助金を交付した。</p>
	<p>■空き店舗活用支援による商店街の活性化 ⇒制度の周知に努め、補助条件を満たした申請者に補助金を交付した。</p>
⑨「企業市民」との協働	<p>第3次西宮市産業振興計画の中でそのあり方を検討する。</p>
⑩ワーク・ライフ・バ ランスの推進	<p>■ワーク・ライフ・バランス実践企業の把握・顕彰 ⇒ひょうご仕事と生活センターと連携し、「ワーク・ライフ・バランス取組宣言企業」の対象となる企業の把握に努めた。</p>

□新規（H30年度開始）

■継続または拡充

【指標値】

取組み 内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	支援対象企業数	—	26 件 (H30)	50 件 (R1)
②	企業誘致数（市内移転含む） 【延べ】	3 件 (H26)	8 件 (H30)	10 件 (R1)
	雇用者数【延べ】	94 人 (H26)	290 人 (H30)	500 人 (R1)
③	産学官連携件数【延べ】	—	13 件 (H30)	10 件 (R1)
④	創業支援による起業者数	64 件 (H26)	115 件 (H30)	120 件 (R1)
⑤	西宮ブランド取扱商品数	—	3 件 (H30)	20 件 (R1)
⑥	川上～川中～川下企業間の マッチング件数	—	18 件 (H30)	20 件 (R1)

基本目標(2) 大学との連携強化

【施策内容の概要】

・本市には、9つの特色のある大学、短期大学が立地し、約3万6千人の大学生が通学している「大学のまち」です。今後も市内大学が活力を維持していくための環境づくりや、豊かな地域社会の構築をめざして「大学のまち西宮」を再認識し、それに相応しい都市の魅力づくりに取り組んでいきます。

【数値目標】

- ・事業数は順調に増えている。
- ・各部局、大学、双方からのニーズは高く、連携へのマッチングに努めている。

指標(単位)	基準値	最新実績値	目標値
1 市と市内大学との連携事業数	37事業 (H26)	90事業 (H30)	100事業 (R1)

【目標達成に向けた取組み内容(平成30年度の状況)】

①大学と連携したまちづくり	<p>■ 大学との連携強化を図るための体制整備、市の連携協力窓口の明確化 ⇒平成28年度より大学連携課を設置。</p>
	<p>■ 大学の教育・研究環境づくりの充実に向けた大学経営陣との定期的な意見交換、ニーズ把握 ⇒西宮市大学交流協議会理事会(各大学学長・西宮商工会議所会頭・市長で構成)において意見交換を行なった。</p>
	<p>■ 市内外の大学に関する情報の収集 ⇒関連情報の収集に努めた。</p>
	<p>■ 市の政策課題について大学生にわかりやすく解説し、意見交換を行う講座の開催 ⇒インターンシップ研修の中で、市長による講義、意見交換を行った。</p>
	<p>■ 西宮市大学生受入研修(インターンシップ)の実施 ⇒市内大学より12名を受け入れ、研修事業を行なった。</p>
	<p>■ 大学等の施設更新にあわせた機動的な都市計画制度等の運用 ⇒関西学院上ヶ原キャンパス周辺のまちなみづくりの基本方針を示した「上ヶ原地域まちづくりビジョン」を策定するとともに、景観地区の指定に向けて関西学院と協議・調整を行った。</p>
	<p>■ 「大学のまち西宮」の発信強化 ⇒西宮市大学交流センターwebサイトの内容充実に努めた。また大学生が企画するPR冊子「WANT」を発行した。</p>

②大学の知的資産と市の資産の相互活用	<p>■ オープンキャンパスや大学主催講座など大学が実施する事業の市民への情報提供 ⇒西宮市大学交流センターwebサイトを活用し、大学主催の講座情報等を発信した。</p>
③大学と地域・企業との交流支援	<p>■ 大学・大学生・地域交流イベント（大学交流祭）の開催 ⇒11月25日に、第18回大学交流祭を開催した。</p> <p>■ 学生ビジネスアイデアコンテスト及び市内企業の経営者によるセミナーの開催 ⇒学生ビジネスアイデアコンテストの1次審査通過者を対象に、市内企業経営者によるブラッシュアップセミナーを開催した。</p> <p>■ ボランティア交流事業などの大学交流協議会地域連携推進事業への支援 ⇒西宮市大学交流協議会の行っているボランティア交流事業を支援した。</p> <p>■ 市の施策や地域活動を支援する学生ボランティアのコーディネート ⇒西宮市大学交流協議会事業として実施した。</p>
④市内企業と大学生との就職マッチング	<p>■ 市内大学、商工会議所、ハローワーク、市が参画する西宮市大学等就職支援情報交換会の設置 ⇒2回実施した。市内大学はそれぞれ6大学が参加し、西宮若者サポートステーションも参加した。また、第2回では市内企業2社も参加した。</p> <p>■ 合同就職説明会、大学内での面接会、就職支援セミナー、職場見学、インターンシップ等の開催 ⇒西宮市新卒者企業就職面接会を開催し、求人企業15社、求職者54名の参加があった。</p> <p>■ 地元就職応援サイト「サクラナビ」による情報発信の拡充 ⇒市内企業の事業内容や福利厚生情報など、内容の充実を図り、就職支援に関して幅広い情報の提供を行った。また、新たに「大学交流センターサイト」の運営を始めた。</p>

□新規（H30年度開始）

■継続または拡充

【指標値】

取組み内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	機動的な都市計画制度等の運用箇所	1箇所 (H26)	2箇所 (H30)	3箇所 (R1)
②	大学交流センター研究関連利用件数（授業含む）	869件 (H26)	895件 (H30)	1,200件 (R1)
	インターカレッジ西宮大学共同講座受講者数	68人/年 (H26)	75人/年 (H30)	200人/年 (R1)
③	学生ボランティア派遣者数（西宮市大学交流協議会事業）	96人 (H26)	62人 (H30)	150人 (R1)
	大学・大学生・地域交流イベントの来場者数（大学交流祭）	5,000人/年 (H26)	6,000人/年 (H30)	6,500人/年 (R1)

④	マッチング事業による新規就職者数	20人 (H26)	46人 (H30)	100人 (R1)
---	------------------	--------------	--------------	--------------

基本目標(3) 都市ブランドの発信強化

【施策内容の概要】

・本市は、「住みたいまち」として評価され、多様な性格を持った「生活そのものを楽しめる魅力的なまち」というイメージを有しています。この都市イメージを活かし、本市の都市ブランドをさらに高めていくとともに、本市の魅力をPRする情報発信の強化に取り組みます。

【数値目標】

・年々順位を上げてきていたが、平成30年度で順位を下げてしまった。

指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
1 地域ブランド調査（魅力度ランキング）	113位 (H27)	119位 (H30)	60位 (R1)

【目標達成に向けた取組み内容（平成30年度の状況）】

①西宮の休日の過ごし方の提案	<p>■多彩な魅力を活用した西宮の休日の過ごし方の提案 ⇒西宮市内で地域の魅力を楽しめるプログラムをまとめた「まちたびにしのみや」を開催した。昨年度まで実施していた「まちたび for FAMILY」は「まちたびにしのみや」に統一した。</p>
	<p>■西宮市観光キャラクター「みやたん」を活用した西宮の魅力のPR ⇒市内を中心に、イベント等に出演した（144回）。</p>
②西宮ブランド（産品）の情報発信の強化	<p>■西宮ブランド（産品）の情報発信 ⇒近隣市や灘五郷酒造組合、阪神電鉄などと連携して、「日本酒」や「阪神間モダニズム」をテーマに事業を展開し、西宮ブランドの発信に取り組んだ。</p>
	<p>■日本酒振興プロジェクトの実施 ⇒日本酒振興プロジェクトとして、蔵開や日本酒学校などを開催した。また、PRキャラクターを活用し、西宮の日本酒の魅力発信と販路拡大に活用した。</p>
③主要駅等での情報発信拠点の整備	<p>■観光案内所の運営 ⇒平成30年10月1日に阪神西宮駅に酒蔵ツーリズムのための情報発信拠点である「阪神西宮おでかけ案内所」を設置した。</p>
④市内外への積極的な情報発信	<p>■インターネット等を活用した効果的な情報発信 ⇒平成28年度に開設したシティプロモーションサイト「西宮 commons」で西宮の魅力を伝える記事を発信する（週一回程度）とともに、市公式フェイスブックやツイッターを活用してサイトの周知を図った。</p>

□新規（H30年度開始）

■継続または拡充

【指標値】

取組み 内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	実施プログラムへの参加者数	—	2,836 人/年 (H30)	10,000 人/年 (R1)
③	観光案内所の利用者数	29,106 人/年 (H26)	9,118 人/年 (H30)	50,000 人/年 (R1)

基本目標(4) 芸術文化・スポーツに触れる機会の促進

【施策内容の概要】

・本市では、進取の気風のもと、市民が主体となって芸術・文化活動やスポーツ活動が活発に行われています。市内の方々に積極的、効果的な情報発信を行い、本市で楽しみながら質の高い生活ができることを情報発信します。

【数値目標】

・市民主催の芸術文化企画数については、設備改修等に伴う休館状況により、年間実績値に増減がある。
・スポーツクラブ 21 の会員数については、少子高齢化の進展とライフスタイルの変容に伴い、会員数の逡減はやむを得ないものと考えられる。

指標 (単位)	基準値	最新実績値	目標値
1 市民主催の芸術文化企画数	551 件 (H26)	537 件 (H30)	580 件 (R1)
2 スポーツクラブ 21 の会員数	13,729 人 (H26)	12,266 人 (H30)	15,000 人 (R1)

【目標達成に向けた取組み内容（平成 30 年度の状況）】

①市民の芸術文化への参加促進	<p>■地域に密着した芸術文化活動の実施 ⇒地域拠点の 40 を超える市民合唱団合同による市民コーラス大会、西宮神社のくぐつ師の歴史に端を発する人形劇祭り等、主体的な市民参画事業に取り組んだ。また、子供が主体となり家族と一緒に気軽に芸術文化に触れられるワークショップや、公民館など身近な場所で芸術文化と出会う機会を提供する事業を実施した。</p>
	<p>■文化施設の有効活用や利用促進の取組み ⇒稼働率向上のため、西宮市市民ホール条例の改正を行うとともに、老朽化した各施設の機能更新を行った。</p>
	<p>■西宮市大谷記念美術館の学芸員による児童・生徒を対象にした美術鑑賞会 ⇒小中学校アウトリーチ事業において、児童を学年単位で美術館に迎え、学芸員による鑑賞会を 8 件実施したほか、学校へ芸術家を派遣し、芸術作品鑑賞やワークショップ等を行うプログラムを 1 件実施した。</p>
②市民文化を担う人材の育成と活用	<p>■プロのアーティストの小中学校への派遣（アウトリーチ事業） ⇒音楽 54 件、美術 9 件、ダンス 3 件の計 66 件を実施した。前年度比で件数は 1.2 倍となった。</p>
	<p>■市民が提案する事業に市が連携する協働事業提案の実施 ⇒市民主体で企画・実施する文化芸術事業を、広報や助成で支援する協働事業提案制度に 8 件の応募があり、7 件を採択した。</p>

	<p>■文化を担う人材の育成（イベント企画講座等） ⇒イベント企画講座という形では実施していないが、「ワークショップフェスティバル・西宮ドアーズ」事業において、講師やスタッフの公募を実施し、文化を担う人材の発掘や育成を行った。</p>
③文教住宅都市を支える学術的事業の拡充	<p>■ライフサイエンスセミナー及び西宮湯川記念事業の拡充 ⇒西宮湯川記念事業については、「西宮湯川記念賞」の贈呈式を、より多くの市民に見てもらうように、平成 28 年度より会場を本庁舎会議室からフレンテホールへと移し、参加者の増加を図った。</p>
④スポーツの楽しさを体感できるまち、トップスポーツゲームを観戦できるまちの実現	<p>■スポーツの素晴らしさ、楽しさを伝え、また技術が向上できる取組みの実施 ⇒「するスポーツ」の観点から、スポーツの楽しさや魅力に触れる機会を提供するため、アスレチック・リエゾン・西宮との協働により陸上競技、サッカー、バスケットボールなどの各種スポーツ体験会を実施した。</p>
	<p>■地域スポーツの推進やスポーツ人口の拡大 ⇒「みるスポーツ」の観点から、トップスポーツを観戦する機会の提供として、Bリーグ・西宮ストークスのホームゲームを 20 試合開催した。 「ささえるスポーツ」の観点から、アスレチック・リエゾン・西宮との協働により、地域や学校の指導者向けに指導力向上のための講習会を実施した。また、地域スポーツの核となるスポーツクラブ 21 の運営に関して、各種の支援を行った。</p>

□新規（H30 年度開始）

■継続または拡充

【指標値】

取組み内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	市及び文化振興財団の事業参加者数	137,373 人/年 (H26)	129,133 人/年 (H30)	160,000 人/年 (R1)
	市民ホールで開催された文化事業の来場者数	202,086 人/年 (H26)	195,076 人/年 (H30)	245,000 人/年 (R1)
	西宮市大谷記念美術館の来館者数	55,977 人/年 (H26)	59,094 人/年 (H30)	60,000 人/年 (R1)
②	西宮市小中学校アウトリーチ事業の参加児童数	—	7,682 人/年 (H30)	5,400 人/年 (R1)
	協働事業提案（芸術文化振興部門）の採択件数	7 件 (H26)	8 件 (H30)	12 件 (R1)
④	スポーツ教室等の参加人数	153,031 人/年 (H26)	140,308 人/年 (H30)	170,000 人/年 (R1)
	運動施設の稼働率	57.0% (H26)	56.7% (H30)	60.0% (R1)

基本目標(5) 結婚・出産・子育て・子供の育ちへの支援

【施策内容の概要】

- ・子供たちを安心して生み育てていくことができるよう、子供たちの健やかな成長を地域全体で見守る「子育てにやさしいまち」を目指していきます。
- ・「子育てが楽しい」「西宮で子育てがしたい」「西宮で教育を受けさせたい」まちであり続けるための施策を推進していきます。

【数値目標】

- ・基準値に使用した市区町村別の合計特殊出生率は5年毎の公表となる。

【参考】本市保健所で毎年算出している合計特殊出生率

(H22) 1.34、(H23) 1.33、(H24) 1.36、(H25) 1.37、(H26) 1.42、(H27) 1.45、
(H28) 1.47、(H29) 1.42

- ・小学生の子育てを楽しんでいる親の割合については、留守家庭児童育成センターの整備や放課後キッズルーム事業の実施など放課後施策を推進し、子育て環境を充実させることで、増加を図る。

指標(単位)		基準値	最新実績値	目標値
1	合計特殊出生率	1.32 (H22)	—	1.41 (R1)
2	子育てを楽しんでいる親の割合	就学前	58.6% (H25)	69.2% (H30)
		小学生	60.2% (H25)	63.4% (H30)
				65.0% (R1)
				65.0% (R1)

「1」：基準値は、「平成20年～平成24年人口動態調査 保健所・市区町村別」(厚生労働省)を使用
 今回の「平成25～平成29年人口動態調査 保健所・市区町村別」は令和2年3月以降公表予定

【目標達成に向けた取組み内容(平成30年度の状況)】

①「結婚したい」「子育てしたい」と思えるための取組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライフスタイルを切り口とする情報発信の強化、定住促進 ⇒平成28年度に開設したシティプロモーションサイト「西宮 commons」で西宮の魅力を伝える記事を発信する(週一回程度)とともに、市公式フェイスブックやツイッターを活用してサイトの周知を図った。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 赤ちゃんとその保護者と小・中・高校生とのふれあいの機会の提供 ⇒小学校4校・中学校10校・高等学校1校で実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学童期からの心身の発育や性に関する正しい知識の提供、支援体制の情報提供

	⇒小学校 4 年生を対象に、思春期講座を夏休みに 2 回実施した。また、地域から性に関する出前健康講座の要請があり、地域で 5 回実施した。
②妊娠から出産に至るまでの支援	<p>■ 妊婦健康診査への費用助成 ⇒妊婦に対し妊婦健診受診助成券を交付し、助成上限額合計 82,000 円 (14 回)までの助成を行った。内訳は、11,000 円×2 回、5,000 円×12 回。</p> <p>■ 特定不妊治療への助成 ⇒国の要綱に沿って、体外受精・顕微授精を受けられた夫婦に対し、医療保険が適用されない治療費の一部を助成した（所得制限・助成回数制限あり）。助成件数は延べ 725 件。</p> <p>■ 不妊治療に対する理解の普及及び心理的障壁の緩和 ⇒市ホームページや市政ニュース等により制度の広報を実施した。また、県所管の「不育・不妊専門相談」の広報も合わせて実施。</p> <p>■ 不育治療への助成 ⇒県の要綱に沿って、不育症の検査・治療を受けられた夫婦に対し、医療保険が適用されない治療費の一部助成（所得制限・助成回数制限あり）を実施したが、助成件数は 0 件であった。</p>
③子育て支援の充実	<p>■ 妊産婦や 0 歳から就学前の子育て家庭のニーズに合わせて情報提供や相談援助を行う「利用者支援事業」の実施 ⇒基本型を北部地域に 1 か所新設し、利用者支援事業の基本型・特定型・母子保健型実施施設が連携しながら、個々の育児支援を実施した。 基本型 3 箇所 特定型 1 箇所 母子保健型 6 箇所</p> <p>■ 子育て支援に関する情報提供の充実 ⇒にのみや子育てガイド（冊子）及び父子手帳を発行・配布した。また、西宮市子育てアプリ「みやハグ」の運用を行った。</p> <p>■ 地域の子育て家庭が集える場の拡充 ⇒保育所の子育てひろばを含め、20 か所で実施した。</p> <p>■ 保育料の決定などでの未婚のひとり親家庭に対する寡婦（夫）控除のみなし適用の実施 ⇒私立幼稚園就園奨励助成金で、1 件実施した。</p> <p>■ 民間施設の赤ちゃんの駅の登録・公表の実施、移動式赤ちゃんの駅貸出の実施 ⇒授乳室やおむつ交換台などを提供することができる施設を西宮市子育てバリアフリー施設「赤ちゃんの駅」として登録し、目印となるステッカーを建物入口等に貼付するとともに、市のホームページ上で公表している。また、民間の該当施設を増やすため、ホームページ上に募集ページを掲載している。平成 30 年度は移動式赤ちゃんの駅の貸出しは無かった。</p> <p>■ こども未来センターを拠点とした新しい支援のしくみの構築 ⇒子供の社会性の発達について、保護者と客観的な結果を共有し、子供の発達の理解を深めてもらうツールとして継続的にかおテレビ（視線計測装置）を活用している。学校園や事業所等に対する研修・アウトリーチによるスキルの向上や子供に対する支援の充実、通園療育や診療・リハビリテーションによる子供の発達過程に必要な支援、診察前親子教室（ほっこり広場）やペアレント・プログラムを実施するなど、保護者支援の充実を図った。また、発達障害などについて広</p>

	<p>く市民の理解を深めるため、市民講演会を実施した。</p> <p>■救急医療の充実 ⇒健康医療相談ハローにしのみや（24 時間対応電話相談）の利用件数 21,233 件。阪神北広域こども急病センター（深夜 0 時以降）の西宮市からの受診者数 609 人。</p> <p>■乳幼児や子供への医療費助成 ⇒健康保険診療による医療費の自己負担額の全額または一部負担金を控除した額を助成した。</p> <p>□助産師による産後ケア訪問の実施 ⇒嘱託助産師 1 名を北口保健福祉センターに配置し、心身のケアや育児支援の必要な妊産婦に対し継続訪問等を行った。</p>
④保育サービスの充実	<p>■保育施設の新規開設や定員増による保育所等待機児童の解消 ⇒民間保育所・認定こども園・小規模保育事業の新設整備や建替（10 園・定員計 715 人）、既存園の認定こども園への移行（1 園・定員 30 人）、私立幼稚園預かり保育補助（定員計 20 人）により保育受入れ枠の拡大を図り、待機児童数は 5 年ぶりに減少した。（413 人→253 人）</p> <p>■不足する民間保育所の保育士確保を支援 ⇒保育士の確保・定着を目的とし、保育士宿舍借り上げ支援事業に加え、平成 30 年度から保育士奨学金返済支援事業も実施した。さらに、保育士就職フェア（年 2 回）を実施し、211 人が参加した。また、保育士リクルートバスツアー（年 2 回）を実施し、44 人が参加した。そのほか、市内保育士養成校での就職フェア等も昨年度に引き続き実施した。</p> <p>■発達に課題のある児童に対する加配保育士の配置の拡充 ⇒発達障害やその他ケアが必要な児童が年々増えており、より細やかな支援を行うため、平成 27 年度より加配保育士の配置を 3 : 1 から 2 : 1 に拡充した。H26 : 35 名、H27 : 40 名、H28 : 46 名、H29 : 48 名、H30 : 53 名の保育士を配置した。</p> <p>■病児保育の拡充 ⇒施設型病児保育を 4 箇所（定員合計 25 名）で実施し、利用実績は延べ 1,649 人。訪問型病児保育・病後児保育利用料金助成制度の利用実績は、延べ 67 人。</p>
⑤子供の居場所の充実	<p>■留守家庭児童育成センターの充実 ⇒4 年生受入れを 11 施設において通年で実施し、小学校休業日において、8 時間開所（開所時間繰り上げ）を 28 施設で実施。</p> <p>■子供の居場所づくり事業、放課後子供教室事業の推進 ⇒子供の居場所づくり事業は、子供の安全な居場所の提供と育ちを支えるため、事業メニューを多様化させ、18 校区で事業を実施した。また、これまでの試行を生かし、運営方法を見直した「放課後キッズ」の事業化に向けた検討を行った。放課後子供教室事業は、地域の方々の参画を得て、35 地区等で様々な体験学習や交流事業を行った。（延べ実施回数 1,459 回）</p> <p>■小学校 4 年生から中学生を対象とした文化的講座「宮水ジュニア」事業の実施 ⇒一部の講座については企画運営を NPO 法人や学校法人、公民館定期使用グループなどに委託し、各公民館において合計 45 講座を実施した。（実施回数は 310 回、参加人数は 5,702 人）</p>

⑥良好な教育環境の提供 と信頼される学校づくり	<p>■ 学校園の教育目標の実現を支援する「自主・自律の学校応援事業」の実施 ⇒47 校園で実施。地域の参画と協働により、子供や地域の実態を踏まえ、インクルーシブ教育、小中一貫教育、学力向上を目指した取組み等を支援した。また、防災教育・学校図書館教育等の推進や地域との交流の活性化による特色ある学校づくりを支援した。</p>
	<p>■ ICT を活用した授業の実施と情報活用能力の育成 ⇒指導者用デジタル教科書を学校管理サーバへの導入からセンターサーバ配信に方式を変更し、利用の利便性に寄与した。また、中学校 PC 教室機器リース満了に伴うリース更新を行った。</p>
	<p>■ 小・中・市立高等学校への外国人外国語指導助手の配置による国際教育の充実 ⇒市内市立小・中・高等学校に全校配置。小学校は半期で週 1～2 日、中学校は半期で常勤（小規模校は週 3～4 日）配置しているが、モデル校で小中各 1 校に通年配置した。高等学校にもこれまでの通年で常勤 1 人配置から、半期で複数配置とした。また、小学校への地域人材の活用事業を行い、19 校が活用した。</p>
	<p>■ 小・中・特別支援学校における自校調理実施による安全でおいしい給食の提供 ⇒全校自校調理方式での給食を実施した。また、設備機器の更新、物資評価委員会の開催、食材の放射能検査を実施し、安全でおいしい給食を提供できるよう努めた。そのほか、空調設備のない給食室について、年次的に空調整備工事を行った。</p>
	<p>■ 学校給食のアレルギー対応強化 ⇒学校給食献立作成・アレルゲン管理システムについて、システムを安定的に運用するとともに、保護者、学校関係者といった利用者の負担軽減によりヒューマンエラーを減らすべく、システム改修を行った。</p>
	<p>■ 小・中学校全校への特別支援教育支援員の配置等によるインクルーシブ教育の充実 ⇒LD、ADHD 等により学習、行動面で著しく不安定な児童・生徒や在籍する学級への支援、校内支援体制充実のため特別支援教育支援員を配置している。平成 30 年度は、全小・中学校（61 校）に各 1 名を週 25 時間（1 日 5 時間×5 日）配置した。</p>
	<p>■ 学校施設における空調設備の整備 ⇒平成 28 年度で小・中学校の普通教室への空調設備の整備を完了した。</p>
	<p>■ 私立幼稚園の就園に対する支援 ⇒対象人数：6,584 人、助成金額：811,414,975 円</p>

□新規（H30 年度開始）

■継続または拡充

【指標値】

取組み内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	対象イベントの開催数	—	4回 (H30)	6回 (R1)
②	母子健康手帳交付時における保健師の面接率	36.7% (H26)	69.6% (H30)	95% (R1)
③	地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）の実施箇所数	15箇所 (H26)	20箇所 (H30)	20箇所 (R1)
④	保育所待機児童数	76人 (H27)	253人 (H30)	0人 (R1)
⑤	留守家庭児童育成センター小学校4年生の受入れ施設数	2施設 (H27モデル実施)	11施設 (H30)	15施設 (R1)
⑥	全国学力・学習状況調査における偏差値が全国平均を上回った教科（知識/活用）の割合	100.0% (H26)	100.0% (H30)	100.0% (R1)
	小・中学校の普通教室への空調設備の設置	63.3% (H26)	100.0% (H30)	100.0% (R1)

④：旧定義では、最新実績値は「187人(H30)」となる。

基本目標(6) 高齢者・障害のある人の暮らしへの支援

【施策内容の概要】

- ・今後も進展していく高齢社会に対応できる地域づくり・まちづくりを目指し、住まい、医療、介護 予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいきます。
- ・障害のある人もない人も、互いに人格と個性を尊重しあい支えあう共生のまちづくりに取り組んでいきます。

【数値目標】

- ・平成 28 年 2 月に「西宮市地域ケア会議設置運営要綱」を制定し、運営について整理を行ったことに加えて、平成 29 年 11 月から地域ケア個別会議の位置づけで「自立に向けたケアマネジメント会議」を創設し、定期的な開催を実施している。そのため、各地域包括支援センターの会議開催件数が増加した。
- ・要介護認定者の居宅サービス受給率は、対前年比では浮き沈みはあるものの、相対的には上昇してきており、この傾向は今後も続く見通しであり、目標達成に向けて進んでいる。

指標 (単位)	基準値	最新実績値	目標値
1 地域活動件数(地域包括支援センター)	1,076 件 (H26)	1,493 件 (H30)	1,365 件 (R1)
2 要介護認定者の居宅サービス受給率	57.4% (H26)	59.8% (H30)	60.0% (R1)

【目標達成に向けた取り組み内容（平成 30 年度の状況）】

①生活支援・相談支援体制の充実	■サロンや昼食会など小地域福祉活動の推進 ⇒ふれあいいきいきサロン実施回数 971 回 ふれあいいきいきサロン参加者数 23,069 人 ボランティアセンター登録者数 3,528 人
	■民生委員・児童委員活動の推進及び支援 ⇒西宮市民生委員・児童委員会の事務局として、広報紙「ともしび」の発行やにしのみや市民祭りでの「ふるさとブース」出店、西宮市民生委員制度発足 70 周年記念大会などの広報活動を支援し、民生委員・児童委員の活動しやすい環境づくりに取り組んだ。
	■地域包括支援センター（高齢者あんしん窓口）の体制整備 ⇒地域包括支援センター 15 箇所（職員総数：63 名） ※ 5 箇所の地域包括支援センターにおいて各 1 名の職員を増員した。
	■地域住民が集い生活支援サービスを提供する地点拠点の整備（共生型地域交流拠点） ⇒平成 30 年度より、補助金制度へ移行。全市展開を目標に、各地域への説明・立上げ支援を推進した。

<p>②介護サービス・住まいの充実</p>	<p>■在宅療養相談支援センターの整備 ⇒5つの圏域ごとに設置された在宅療養相談支援センターを中心として、圏域内の多職種連携の強化を推進した。</p> <p>■特別養護老人ホーム等の高齢者の住まいの整備 ⇒特別養護老人ホームの既存施設の増床(2床)、及び認知症対応型共同生活介護の新規開設(18床)及び既存施設の増床(1床)があった。また、整備法人の公募を行い、認知症対応型共同生活介護(36床)及び特定施設入居者生活介護(175床)の採択を行った。</p>
<p>③高齢者の知識・経験・技術等の活用支援、生きがいづくり</p>	<p>■宮水学園受講者の地域貢献活動の促進及び支援 ⇒明るく元気な地域づくりに貢献する活動を行った団体を表彰する「宮水学園いきいき活動賞」を13団体に贈り、地域貢献活動の促進及び支援を図った。</p>
<p>④高齢者の就業機会の確保</p>	<p>■高齢者の就労に関する相談の充実 ⇒キャリア・コンサルタントによる相談を通じて自らのキャリアを振り返り適職を探す支援を行ったほか、セミナーの実施、相談者の状況に応じた様々な助成や職業訓練の情報提供を行った。</p> <p>■西宮市シルバー人材センターなどへの支援 ⇒西宮市シルバー人材センターが実施する高年齢者就業機会確保事業に対して運営費の一部を補助した。</p>
<p>⑤障害のある人の生活支援の充実</p>	<p>■研修等による相談支援事業者の質の向上 ⇒障害者あんしん相談窓口連絡会において、研修や事例検討などを実施した。</p> <p>■地域自立支援協議会等を活用したネットワーク作り ⇒運営委員会、本人中心支援部会、しごと部会、子ども部会、地域生活移行連絡会、障害者あんしん相談窓口連絡会を毎月もしくは隔月で開催。また、総会や報告会を年1回開催。</p> <p>■障害のある人の就労に関する相談支援の充実 ⇒西宮市障害者就労生活支援センター「アイビー」への相談件数7,229件。</p> <p>■福祉施設から企業等への一般就労移行促進 ⇒地域職業体験「はたらこか」を実施した。</p> <p>■福祉的就労支援の強化 ⇒販路・企業開拓などに力を入れ、福祉事業所の売り上げ2,350万円分の支援を行った。</p>
<p>⑥障害のある人の日中活動の場の整備</p>	<p>■障害者自立支援施設の計画的な整備 ⇒障害者グループホームの創設等の整備補助の公募を行ったが、応募法人なし。</p>

□新規（H30年度開始）

■継続または拡充

【指標値】

取組み 内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	生活支援コーディネーター	—	6名 (H30)	6名 (R1)
②	地域のショートステイ総定員数	14人 (H26)	34人 (H30)	44人 (R1)
	特別養護老人ホームの総定員数	1,381人 (H26)	1,617人 (H30)	1,711人 (R1)
	在宅療養相談支援センターの 設置	—	5箇所 (H30)	5箇所 (R1)
③	生涯学習大学「宮水学園」講座 受講申込者数	2,963人/年 (H26)	3,131人/年 (H30)	3,500人 (R1)
④	西宮市シルバー人材センター 会員数	2,189人 (H26)	2,302人 (H30)	2,750人 (R1)
⑤	計画相談支援・障害児相談支 援の支給決定者数	394人 (H26)	3,146人 (H30)	3,936人 (R1)
	障害者就労生活支援センター 登録者数	446人 (H26)	653人 (H30)	650人 (R1)
⑥	市内指定生活介護事業所の 定員	481人 (H26)	586人 (H30)	511人 (R1)

基本目標(7) 地域特性を踏まえた取組み

【施策内容の概要】

・交通利便性の高さ、田園風景が残る環境、賑わい・活気のある環境など、本市には、多様な魅力があり、地域それぞれの特性があります。地域により抱えている課題も異なっているため、地域における市民活動への支援や、良好な住環境の保全、地域の魅力発信などを通じ、人口の増加や人口減少の抑制を図ります。

【数値目標】

・平成 30 年度は過去実績値と比べ最も高いものとなったが、目標値にはまだ届かない。今後も引き続き各関連施策を推進することで、数値が上昇することを期待したい。

指標 (単位)	基準値	最新実績値	目標値
1 地域ブランド調査 (ぜひ住みたい・できれば住みたい)	6.7% (H27)	8.8% (H30)	12.0% (R1)

【目標達成に向けた取組み内容 (平成 30 年度の状況)】

①地域における市民活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民活動、自治会運営等に関する相談支援、サークル活動等のための支援 ⇒自治会ガイドブック (加入促進編) や加入促進チラシについて、要望のある自治会等に配布するなどの支援を行った。 ■ 自治会等の公益的な活動中に発生した事故等に対する補償についての支援 ⇒8 件の事故に対して各種補償金を支給した。 ■ 市民団体が主体的に取り組む「にしのみや市民祭り」への支援 ⇒市内の各種団体で構成される「にしのみや市民祭り協議会」に対して、補助金の交付及び事務局を設置することにより支援を行った。 《第 43 回にしのみや市民祭り》 開催日：平成 30 年 10 月 27 日 (土) 来場者数：37,000 人
②良好な住環境の保全と地域の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ■ まちづくり協議会等への地区計画等策定に向けたアドバイザー派遣 ⇒地区計画やまちづくり協定等の策定に取り組む 3 地区の団体にまちづくりの専門家を派遣した。 ■ 空き家活用による地域貢献活動への支援 (改修支援、マッチング支援) ⇒空き家バンク登録 (物件 2 利用希望者 3 マッチング件数 0) 空き家改修費補助 (0 件) 空き家利活用関連相談 (26 件) ■ 戸建住宅住替え支援 (改修支援等) ⇒空き家改修費補助 (0 件) 空き家居住関連相談 (4 件) ■ 宮っ子のいえアドバイザー派遣による地区コミュニティ形成支援 ⇒2 団体に対して合わせて 2 回の派遣を実施し、市民主体の活動の支援を行った。

	<p>た。</p> <p>■すまいの総合窓口での住宅ニーズの収集及び住まいの情報発信 ⇒建築・リフォーム相談（88件） 不動産相談（162件） マンション管理相談（60件）</p>
③市内移動の利便性向上	<p>■南北方向の交通アクセスの向上 ⇒市民意識調査の結果を反映させて平成21年度に策定した「都市計画道路整備プログラム」に基づき道路整備を行っており、平成31年3月末現在の都市計画道路の整備率は84%となっている。</p>
	<p>■バス路線の拡充と利用に応じたダイヤの見直し等 ⇒バス事業者とバス路線の再編・拡充等について協議を行い、小曾根線(JR甲子園口駅～武庫川団地・鳴尾浜間)のバス路線を新設することができた。</p>
	<p>■バス停留所上屋・ベンチの設置やノンステップバス・バスロケーションシステムの導入 ⇒ノンステップバスの導入やバス停留所への上屋・ベンチの設置について、バス事業者と協議のうえ、補助を行った。</p>
	<p>■主要駅における自転車駐車場（駐輪場）整備 ⇒既設自転車駐車場の一部で増設を行った。</p>
④人口減少・少子高齢化が先行する地区への対応	<p>■【鳴尾地区】地域特性に応じたスポーツ活動の企画支援と情報発信 ⇒バスケットボールの盛んな地域特性を活かした企画として、浜甲子園体育館にて、西宮ストークスと指定管理者が連携し、小・中学生を対象にバスケットボールスクールを実施し、小学校低学年767名、小学校高学年745名、中学生1802名が参加した。バスケットボール競技の普及やスポーツ人口の拡大にもつながるため、HPや市政ニュースを活用し、情報発信した。</p>
	<p>■【鳴尾地区】鉄道高架事業や駅周辺地区の整備にあわせた新たな土地利用の誘導・促進 ⇒武庫川女子大学や地元の意見も踏まえ鳴尾駅前の公園や道路等の整備を行った。</p>
	<p>■【北部地区】国道176号名塩道路の未整備区間の早期整備促進 ⇒異常気象時通行規制区間の解消へ向け、生瀬工区の工事が継続的に実施された。また、東久保工区の工事が着手された。</p>
	<p>■【北部地区】コミュニティ交通についての支援 ⇒既にコミュニティ交通を運行している地域に対して、運行損失等の助成を行ったほか、コミュニティ交通の取組みを行っている複数の地域団体へ専門家を派遣した。</p>
	<p>■【北部地区】国見台における企業誘致 ⇒継続的な企業訪問や奨励金等の活用により、国見台の用地は平成29年4月に完売した。</p>
	<p>■【北部地区】自然を活用した交流の機会創出 ⇒船坂里山学校（旧船坂小学校跡施設）において、地域住民等による実行委員会が実施する農業祭と連携して、里山風景と農産品を活用したイベント「船坂マルシェ&ふれあい広場」を開催し、地域を訪れる人と地域住民との交流の機会を創出した。</p>
<p>■【北部地区】山口町船坂等の地元主体によるまちづくりについて支援 ⇒船坂地区において、地元が主体となって行う古民家のワークショップを支援すると</p>	

	ともに、古民家活用支援事業による補助金を交付した。また、地域活性化の取組みとして、ランチルームにおいて飲食店の運営、農産物、農産加工品等の販売を行うことができるようにするため、必要な手続きの準備を行った。
--	--

□新規（H30 年度開始）

■継続または拡充

【指標値】

取組み内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	自治会加入率	77.3% (H26)	71.09% (H30)	80.0% (R1)
②	地区計画の策定件数	32 箇所 (H26)	35 箇所 (H30)	35 箇所 (R1)
	景観重点地区の指定	2 箇所 (H26)	4 箇所 (H30)	5 箇所 (R1)
	空き家地域活用件数	—	0 件 (H30)	5 件 (R1)
③	都市計画道路整備率	76% (H26)	84% (H30)	85% (R1)
	路線バス利用者数	49,822 人/日 (H26)	51,954 人/日 (H30)	50,000 人/日 (R1)
	踏切箇所数	42 箇所 (H26)	36 箇所 (H30)	36 箇所 (R1)
	自転車駐車場（駐輪場）収容可能台数	29,730 台 (H26)	30,986 台 (H30)	30,000 台 (R1)
④	産・学・官による地域活性化に関する連携協定（鳴尾地区）	—	0 件 (H30)	1 件 (R1)
	船坂里山学校の来場者数	5,258 人/年 (H26)	21,042 人/年 (H30)	8,000 人/年 (R1)
	コミュニティ交通の利用者数（生瀬地区）	44 人/日 (H26 試験運行)	98 人/日 (H30)	88 人/日 (R1)
	さくらやまなみバスの利用者数	403,603 人/年 (H26)	403,427 人/年 (H30)	430,000 人/年 (R1)